

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援教室 ゆるゆる		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	2025年 12月 20日		2026年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育の利点を生かし、個々の特性を考慮し、それぞれに合わせたプログラムを行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供に1対1で接することでその特性を把握し、児に合わせた課題や時間配分ができる。</li> <li>・子どもの特性に合わせた見通しボードや課題を作成し、個々に合わせたタイミングで見通しを示すことができる。</li> <li>・医療的ケアが必要な場合は、その疾患の特性も加味しつつ支援計画をたてる事が出来る。</li> <li>・必要時には、個別療育は担当固定制とするが、運動等で他の職員がかかわり、担当チームで支援の方法を考えるようにしている。</li> <li>・個の状態が落ち着いて来た段階で、小集団の中で対応できるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の特性や発達、課題を知る事が出来るアセスメントの作成。</li> <li>・プログラムの作成にあたり、発達障害に対する研究文献や、体験者経験等により多くの症例に触れ学びを深める。学びを職員間で共有する。</li> <li>・スキルの平準化を図る。</li> </ul>
2	毎回の療育後に保護者と対話する事が出来るため、保護者の疑問や、その時に不安に思っている事・困っている事をリアルタイムで課題に反映することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人や保護者の困りごとに対応したプログラムを検討・実施する。</li> <li>・類似した特性でも子供を取り巻く環境によって支援方法は異なるため、個々に対して担当スタッフ間の話し合いと保護者や関係機関との連携を図るようにしている。</li> <li>・療育で行っている事を、家庭でも活用できるように視覚教材の共有や、声かけや働きかけの方法の共有を行っている。</li> <li>・児の不安が大きい場合には、適した声かけの方法を模索する中で保護者の意見を重視し共有する。</li> <li>・幼稚園や保育園との連携を図り、療育の支援をどのように集団で生かされているのかを把握し、支援の方法の再検討としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までのデータを評価し、今後の課題の参考とする。</li> <li>・幼稚園や保育園、併用施設との連携による成果のまとめを行い、次の場面に生かす。</li> </ul>
3	母体が小児神経科であるために、専門外来や発達外来等による医師や理学療法士の専門的な意見やプログラムの提案を受ける事ができる。また、事業所内に常時 看護師・助産師・5年以上の保育士がいるため、それぞれの視点から児に必要な課題を考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来を受診するときに、療育の様子の伝達を行う。</li> <li>・外来受診後の注意点等の指導を得る。</li> <li>・動きの評価や効果的な運動等の助言をもらい、遊びの中に組み入れて行う事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの専門性に基づいた勉強会や、施設間相互の勉強会を設け参加できるような職員配置の実現。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流不足	母子分離による個別短時間療育であり、療育中は、保護者は出かけている事が多いため、交流が図りにくい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同士の交流ができる部屋を設定する。</li> <li>・療育中は、保護者の自由な時間としているため、療育外の時間のイベント等で交流が図れるようにする。</li> <li>・保護者の学びの場を設ける。</li> </ul>

2	同レベルの児同士の小集団が組みにくい時間帯がある。	年齢や障害のレベルによって時間帯を分けていないため。	<ul style="list-style-type: none"><li>・振替えや追加を利用して、定期的に同レベルの小集団活動を行う。</li><li>・幼稚園や保育所、他の集団療育との連携を密にする。</li></ul>
3	地域との交流が図りにくい	<ul style="list-style-type: none"><li>・短時間の個別療育で、3つのグループに分かれているため。</li><li>・幼稚園や保育園に通園している児が多いため、時間帯的に難しい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・イベントの実施</li></ul>

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援教室 ゆるゆる
------	---------------

公表日 2026年 2月 26日

利用児童数 26

回収数 25

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	25					今後も活動の場を確認していただきつつご意見をいただけるようにしていきたい。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	25					
	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25				・夏場に外階段の手すりがあつくなるのに、すぐ対策して頂いてとてもありがたい。(熱いと伝えても子供はすぐ握ってしまうので)	既存の施設の困り事へ工夫しつつ対応していきたい。
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25				・いつも清潔で汚れていると思ったことがない。	1日2回の清掃を行って、利用児が不安なく活動出来るように心がけている。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	24	1			・この度の園探しに大変親身になって相談に乗ってくださり、園へ同行して下さいました。	個々の特性に合わせた支援と、保護者の方々、他の施設との連携を重視し、一貫性のある支援を心掛けていきたい。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	25					支援プログラムの見直し、検討を職員一同で行ってきたい。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	25					保護者の不安や、個々の特性を加味しつつ、年齢や置かれた状況を考慮した計画を考案していきたい。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	25					個別計画・専門的支援計画を担当者全員で意見を出し合い作成し、承諾をいただいた計画を常に念頭に置きながら支援出来るように心がけていきたい。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	24	1				担当者で疑問に思ったり、保護者からの声について、つねに話し合いの出来る環境づくりに心がけている。
保 護 者 へ の	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	13	3	2	7		幼稚園や保育園に通園している利用児と通園していない利用児の関わりを行っている。開放日等を設定して関わりを推進しているが、個別療育の時間設定上、他の園との関わりを持つ子どもが難しく出来ていない。検討していきたい。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	25					初回面談時に説明を行っている。また、常に関覧できるように設置している。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	25					支援計画について、個々の状況や、今後行っていきたい支援について説明を行っている。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	21	2		2	・進学についての交流会はとても参考になりました。	必要と認められた場合や、希望があった場合など、ペアレントトレーニングを不定期に行ってきたが、定期実施について検討を進めている。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	25				・子どもの何気ない仕草も気づいてもらい保護者に伝え、聞いてもらえる。発語のない子供に不安にならないくらい共有してもらえる。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25				・いつも悩みがある時に相談にのって頂き助かっています。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25				・どの職員さんからも優しく対応頂き感謝しています。	

説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	18		2	5	・きょうだいについての相談にもって頂きありがたいです。	父母の会の設定に至っていない。コロナが落ち着き、保護者同士、待合いの時間の交流を検討しているが、部屋の設定等の問題から実施に至っていない。今後交流会を設定していきたい。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	24	1			・この度の園探しに大変親身になって相談に乗ってくださり、園へ同行して下さいました。 ・体調を崩し服薬に苦労していると相談すると対応して下さる。不安なことも一緒に解決しようとしてくれるので安心です。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	24	1			・お便りをくださっています。	インスタグラムの発信をしている。個々には、個々のお手帳やLineにて対応を行っている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25					個人情報の取り扱いについては、研修を行うなどして、職員間の周知に努力している。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23	2				各マニュアルについて策定、研修、実施を行っている。緊急時対応については、訓練実施の様子を掲示しているが、その他の訓練についての掲示が不足していると反省した。今後行っていきたい。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	25					年2回、避難訓練を行い、その様子を掲示している。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24	1				安全計画についての周知徹底を行ってきたい。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24			1	・そもそも事故がないです。	怪我等を含む事故の未然防止のために、職員の意見を出し合い、常に声かけをする環境作りに努めている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	23	1		1		子供の特性に合わせた対応を今後も心がけていきたい。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22	2		1	・車を降りてリュックを背負う時、楽しそうなのが伝わってきます。 ・毎週とても楽しみに通っています。ありがとうございます。	通所に際して、子供の様子や、保護者の大変さを遠慮なく伝えていただき、その対応について考えていけるように努めていきたい。
	29	事業所の支援に満足していますか。	23	1		1		個々の特性や困り事、家庭における支援についての疑問など、優先度を考慮しつつ利用児が日々の生活を楽しく過ごせるような支援が行えるように努めていきたい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援教室 ゆるゆる		公表日		2026年 2月 26日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個別療育を行う場合、1部屋の広さは4畳半以上を確保し、遊びの課題に対応している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		個別療育と小集団を個々の特性に合わせながら実施することで、現状の職員数で対応出来るようにしている。	個々に応じたサービスを実施できる利点はあるが、継続のための職員は位置に留意していく必要がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚支援ツールを使用して子供に分かりやすく提示できている。 事業所が2階で階段があるが、階段は、昇降の練習、訓練に活用し、必要に応じて介助している。	既存の建物であるため、バリアフリーとはなっていないが、歩行器やずり(肘)這いなどに対応出来るように片付けの位置の工夫、段差の解消などに留意していく必要がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		朝・昼と掃除・消毒を行っている。 活動に合わせ、集中できる環境。運動出来る環境。切り替えの練習ができる環境など、それぞれの目標や用途に応じた環境づくりを心がけている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別療育が主体であるため、認められている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		個々の支援会議や、必要に応じ行うケース検討等は担当スタッフ全員で行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年、保護者からの声を改善項目にて、改善を図っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝礼にて出された提案について、職員一人一人が意見を出せるようにしている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		今年度より、法人と月1回の運営委員会を開催。外部評価を行い、話し合いの結果に応じ業務改善を行っている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		個々人が希望する研修は受ける事が出来ている。	少数のスタッフであるため、研修期間が長期に渡るものへの参加が難しい。	
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		日程を視覚化し、話し合いなども適宜行い、個別の適したプログラムが実施されている。	定期的、支援プログラムの見直しをスタッフで行う必要がある。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		毎回の療育時に保護者と対話しているため、日々の困りごとなど確認し、対応方法を考えている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援計画案をもとにした支援会議には、担当職員全員が参加し検討している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別療育の課題を検討する中で、必ず計画に立ち戻り行い、記録の際も計画に照らしあわせてつづけるようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			アセスメントツールを個々の特性に合わせて上手く活用できていない。個々の特性に合わせてられるように検討中。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5項目に分けながら計画を策定した上で、その優先順位を決めつつ行っている。 児に関わっている施設との連携を重視している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個別療育の際、担当している職員間で話し合いながら課題を決定している。		

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		個々の特性と発達、年齢を考慮しつつ活動のプログラムを決定しており、個々の到達目標に向けて発達が促されるようにしている。	成長とともに顕在化する困り事に対応し、常に目標の見直しを行っている。プログラムの流動性も個々の特性にあわせるようにしている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別療育・小集団療育（運動）を実施しているため、計画は双方を組み合わせた形で立案している。個々の状況に合わせ、どちらを強化するか検討し行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日朝礼を行い、その日の必要事項について伝達・確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後には職員間での振り返りを行い、次への支援へつなげることができている。	毎回の支援後に振り返りを行っているが、その記録を常に確認できるような工夫が必要である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録は、計画と照らし合わせて課題の成果を検討出来るような様式とし、支援会議につなげられるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的モニタリングを元に計画・支援会議を行っている。	
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者会議や連携には、児発管と担当者が出席するようにしている。
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		相談支援員を通じて、各支援期間との会議を定期的に開催している。必要時には直接連携をとっている。	
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		併行通園をしている療育で行っている課題の把握を行い、必要時には類似課題の導入を行っている。保育園や幼稚園とは定期的に情報の共有を行い連携を取っている。	
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		学校見学の同行や、移行支援シートの作成、情報共有会議等を行っている。	
28		(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31		(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		地域の児童発達支援センターと連携し、地域とのつながりを図る事業や、利用児の支援方法の共有を行っている。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	クリスマス会などを実施。事業所開放日を実施し、地域の方々に来訪していただいている。	クリスマス会や、開放日などで利用児と幼稚園児などと交流する場面はあるが、回数的に少ない。今後交流会などをどのような形で開催することが出来るのか検討する必要がある。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回終了時に療育の様子を伝え共通理解を図っている。保護者の困りごとにも即対応できるようにしている。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		偏食に悩む親へのサポートや、摂食につながる課題を取り入れ共有している。必要時、個別にペアレントトレーニングを4～6回を1セットとして実施している。	ペアレント・トレーニングを実施できるか回数が少ない。今後、定期的に開催（または、個々に開催）出来るように努めたい。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		全例について行っている。また、閲覧できるように、掲示している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		送迎時の保護者との頻回な対話が可能であることから保護者の意向をくみ取りやすい。計画案に基づき支援会議を開き保護者の意向と支援時などの子供の意向を踏まえ計画作成出来るようにしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		全例に行っている。支援計画説明時に保護者からの意見もいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		毎回、療育の終了時または、送迎時に対話を行っている。また、お手帳を使用し、療育のない期間に抱いた困り事や疑問についても対話出来るようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		クリスマス会や就学に向けての話などの機会を設けている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談については、その日の療育内で対応できるようにしている。対応困難時は、メールや電話でのやり取りを行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		インスタグラムを取り入れている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いに関しては、職員全員に周知徹底するようにしている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		必要に応じ、視覚支援教材作成、手話の研修、手話や赤ちゃんサインの使用等、保護者や併用施設と連携をとりつつ行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		事業所のポスターやチラシを作成中	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		職員間においては、定期的に研修を行う等して話し合いや周知を図っている。家族については、説明を行い周知を図っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを作成し、定期的話し合いを行っている。避難訓練を定期的に行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		医療ケア児について、その服薬や発作時の投与約等の情報を収集。必要な児については、発作時対応の医師許可をもらっている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事の提供は行っていない。小麦アレルギーの子どもには寒天粘土を使用する等対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			より適切な安全計画の策定を行う必要があり、職員間で策定をしている。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者と安全対策についての共通認識を持てるよう毎回の療育後の対話の中で確認している。	適切な安全計画について、他のマニュアル同様に周知徹底を図る必要がある。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	○		インシデント・アクシデントの記録と全体での共有、原因の共有、再発防止のための対策共有を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会の設置、研修や委員会の実施を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		拘束に関しては、療育時の安全確保の観点から子供用椅子のベルトやバギーを使用する場合、その計画の作成や記録、保護者の了承を得られるよう説明を行っている。	